27PW-am240

薬局業務に役立つ資格･技能に関する意識調査

○中川　尚美[1], 井原　美穂子[1], 濱邊　和歌子[1], 徳山　尚吾[1]（[1]神戸学院大学薬　臨床薬学部門　臨床薬学研究室）

【目的】薬学教育 6 年制が開始され、薬剤師の資質向上や業務のさらなる進展は、患者、医療従事者のみならず、国民からの大きな期待となっている。しかしながら、それらの期待を具体化するための方策は未だ確定していない現状にある。本研究では薬剤師がより幅広い業務を展開するための手段の一つとして「新たな資格・技能」に着目し、薬剤師にとって必要と考えられる資格・技能の取得状況やそれらに対する意識調査を行った。

【方法】郵送によるアンケート調査を行った。対象者は兵庫県薬剤師会に属する保険薬局の薬剤師（送付数 200、回収率 55.5%）とし、期間は 2007 年 7 月 10 日 ～ 8 月 10 日とした。

【結果および考察】回答者の 30% が薬剤師免許以外の資格・技能を取得しており、それらを認知した情報源としては、講習会やマスコミを介したものが多かった。また、資格・技能の種類としては在宅医療で必要となるケアマネジャーが最も多く、次いでレセプト時に必要となる診療報酬請求事務であった。取得理由としては「薬剤師活動で必要となったため」「薬剤師会・勤務先の薦め」「事故、災害時に遭遇し必要性を感じたため」などがあげられた。一方、取得していない理由としては「時間に余裕がない」「職場のサポートが少ない」「経済的理由」などの取得を妨げる障害があることが明らかとなった。さらに、必要性がない」「情報不足」「他の資格取得よりも薬剤師としての職能の向上が必要」等の意見も挙げられた。現在、職場において資格・技能取得へのサポートがあるのは 44%で、今後、薬剤師の職能を高めるためにも薬剤師会等による情報提供や、職場での資格・技能取得への理解を高めていく必要性があると思われる。